

阿佐ヶ谷神田伊織会 第2回公演

開催日：2022年5月22日（日）14時開演

場 所：阿佐ヶ谷ワークショップ

演 目：第一席 水戸黄門と講談師との喧嘩騒動

第二席 二代目濱野矩随^{のりゆき}、恋の彫物

参加者：14名

● 講談界の現況と近況から本題へ

事前のメールでの申し込みがわずか1名しかいないということで参加人数を心配していたが、開演時にはそここの人数となつてまずは一安心であった。

開演とともに、演劇で言えばマエセツのような話から始まり、講談界の現状と近況を述べ、そのなかで近来稀に見る異変が生じ、一挙に11名もの見習いが入ってきたという。東京と大阪の講談師全部合わせて90数名しかいないところに、11人もの新人が入ってきたというから確かに大異変である。

神田伊織が見習いとして入ったのがちょうど6年前の5月のことであり、見習い期間は3か月でその後前座ということになるが、前座の身分と言うのはいわば奴隷であるという。しかし、11名もの見習いが入ってきたことで、神田伊織は立前座としてまとめ役、見習いを取り仕切る立場となった。しかし、その前座から9月には二ツ目に昇進になることがあわせて報告された。

このマエセツ的な話と講談界、そして講談そのものについてなどの話から途切れなく、水戸黄門漫遊記の話へと進み、諸国漫遊で助さん、格さんを伴つての漫遊の話の前の講談について言及され、知らぬ間に講談の本題へと誘い込まれていった。

● 水戸黄門と講談師との喧嘩騒動

越後騒動で取り潰しとなった高田藩の家臣がお家再興の望みを抱いて武士から俳諧師に身を変え、水戸光圀公に従つて諸国を巡る仙台藩の旅先で、講談師が越後騒動を語る演席で、無学な講談師がでたらめな話を語っていると行って中座して帰ろうとしたところから、講談師と観客を巻き込んで喧嘩騒動となり、役人から番屋に連れて行かれ、奉行所で裁かれることにまでなる。

老公の態度がふてぶてしいということで、ついには入牢させられそうなところ、藩主からの書状が奉行あてに届き、そこには水戸の御老公が変装して仙台藩まできており、そこに書かれている人相、装束が前で裁いている当の本人であると気づいて、立場が逆転してしまう。

プレ水戸黄門と後の水戸黄門の違いの一つである、助さん、格さんの従者だけでなく、例の印籠で身分を明らかにするのではないというところの面白さが新鮮であった。

● 腰元彫、二代目濱野矩随^{のりゆき}の恋の彫物

中入りの休憩もなく、続けての講演。これは落語の演目としてもあるが、講談でも落語のような面白み（おかしみ）のある話であった。

名人と言われた先代濱野矩随が亡くなり、母親と二人暮らしの息子松次郎も二代目として腰元彫師となるが、先代とは打つて変わってへたくそで、彫つたものが一つも売れず、生活にも困窮している。しかし、先代を最良にしてくれた店の主人が、松次郎が彫つたものはすべて買い上げ

てくれるということで、なんとか食いつないでいくことができるようになる。

ある時、芝明神の祭りで見た踊りの師匠に一目惚れして、嫁にもraitたいと母親に打ち明けるが、提灯に釣り鐘、と取り合ってもらえない。松次郎はそこでその踊りの師匠の踊る姿を彫り上げ、鬘眞の店の主人に見せる。それはこれまでの松次郎の出来とは格段の差があり、主人は松次郎に「お前が彫ったものか？」と尋ねる。松次郎はそのいきさつを話し、その踊りの師匠を嫁にもraitたいと打ち明けたとたん、出入り禁止を申し渡される。

踊りの師匠は松次郎が自分の踊る姿を彫っているという話を聞いて、それを松次郎から買い受けるが、それは、その彫り物が自分の踊りとは似ても似つかぬ愚作であると言って、薪として燃やしてしまうために買い上げたのであった。その侮辱に耐え兼ねた松次郎は踊りの師匠を見返すために、京都へ3年の修行に出る。

3年の修行の後、踊りの師匠に舞姿の彫り物を見せつけると、自分の踊りを上回るものだと言って、松次郎を座敷に引き上げる。と、そこには自分の母親が座って控えており、それまでのいきさつを松次郎に聞かせる。すべては松次郎を発奮させるための芝居であったことが明らかとなり、松次郎は無事踊りの師匠と結ばれる。

ハッピーエンドの人情噺で、心もすっきり晴れやかとなる話を聞かせてもらった。

【後記】

今回は演目が事前に知らされていなかっただけでなく、公演に当たっての演目の案内もなかったもので、タイトルもうろ覚えで、登場人物名も覚えていなかったもので、不十分な記述となってしまうが、二演目とも非常に興味深く聴かせてもらった。

● 懇親会

阿佐ヶ谷ワークショップ理事長の佐竹さんが用意された料理と飲み物、神田伊織さんを囲んでの懇親会には11名が参加。「阿佐ヶ谷神田伊織の会」初参加のお二人に自己紹介などしてもらい、6時までの散会まで大いに懇談を楽しんだ。

《次回、第3回神田伊織の会》

8月28日（日）14時から、阿佐ヶ谷ワークショップにて

《神田伊織さんからの案内》

6月3日（金）18時より、台東区生涯学習センターミレニアムホールにて

オペラと講談と活弁のコラボレーション公演 『ヒロインたちの憂鬱』と題して、ビゼーの『カルメン』より、音楽劇『弦の恩返し』

全席自由席、前売り¥4000- 当日¥4999-

(高木 登記)